

平成 22 年度

相 楽 ぶ る さ と 塾

(第 1 7 期)

活 動 報 告 書



相楽郡広域事務組合



CONTENTS

ごあいさつ	1
塾生意見発表	2
活動概要	3 4
開催状況	3 5
塾の開設計画	3 7
修了生名簿	3 9



相楽郡広域事務組合

代表理事 木村 要

ごあいさつ

塾生の皆様には、それぞれお仕事に従事されながら、あるいはご家庭の主婦として、さらには、各地域での役職なども兼ねながら、ことのほかお忙しい方々ばかりではありますが、開講式以来、本日まで10回にわたる講義、相楽圏域内の視察研修に終始熱心にご参加を賜り、誠にお疲れ様でした。

さて、ご承知のとおり、この「相楽ふるさと塾」は、ふるさと市町村圏振興事業基金7億円の運用益をもって運営している事業で、相楽圏域内の文化振興やまちおこしなど、広域的なソフト事業のなかの中心的な事業でもあります。本年度で17回目を迎え、この課程を終えられた塾生は、約290人となりました。これらの方々の中には、各種イベントへの参画やボランティアへの参加など、積極的に地域に根ざした活動をされている方が多数おられます。

塾生の皆様には、この「相楽ふるさと塾」で会得された知識、情報、あるいは、人脈を生かし、地元や職場、活動場所に持ち帰っていただき、力強いリーダーとして相楽圏域の発展に寄与していただきますようお願い申し上げます。

塾生意見発表

知るは楽しい、知るは力なり

木津川市 木村 隆昭

この「相楽ふるさと塾」によって、私は、人それぞれが、ふるさとを知り、地元を知り、そして自分を知ることが、自分の人生を豊かにしていくと思えました。人はどこから来て、どこへ行くのか。本当の幸せとは何か。そんなことをもっと知りたい、考えたいと思います。

私は、長い間、地元山城町に住んでいながら、山城町の茶問屋や加茂の恭仁京のことは少ししか知っていませんでした。今回の受講によって、旧相楽郡の歴史や文化、今現在の農業や産業の頑張りを現地視察し、「相楽」の由来を先生に学び、伝統あるお寺や学研都市の新しい施設も伺い、それぞれの説明を聞きました。

案内されたところは、一部であり、この旧相楽郡内には、もっともっと面白いところが潜んでいるような気がしました。私たちの誰もが愛着を感じ、他人に気軽に土地のことをしゃべることができたなら、私たちの地元を訪れた人や観光客や友人に喜んでもらえるのではないのでしょうか。住民のちょっとした気配りや案内ができるような地域になれば、それが、それぞれのまちの「観光力」になり、また、まちの活性化にもつながっていくのではないのでしょうか。

この半年、私は、いろいろなことに興味や関心が深まりました。ちょっと変わったところでは、今年の1月、大谷処理場（し尿処理場）の見学と精華町にある打越台環境センター（清掃工場）の見学に行っていました。変な人と思われるかもしれませんが、この「相楽ふるさと塾」を受講しなかったら、こんな行動はできなかったと思います。

今、落ち着いて振り返ってみると、私たちは、ごみを出して、多額の処理費用を払って、環境にダメージを与えているあまり良くない人の一員なんだという思いです。極端に言えば、生きている限り、環境破壊をしている側の動物なんだということです。

事実はそうかもしれませんが、行動して見方を変えると違うものが見えてきます。知るによって、地元の価値観が変わりました。ささやかな幸せを感じることができました。ここから一歩前に出ようと思います。

まちづくりへの想い

木津川市 柳澤 昌弘

会社勤めをしていた40年間は、生まれ育った地域の歴史・文化の経緯や地域産業の経過や現状を知る余裕がなく関心も薄いものでした。会社を離れた今、これからも住み続けるこのふるさとを守り発展させ少しでもよくした上で、次世代につなげていければという想いです。

そのため、「このふるさとを活性化するにはどうするか」を考える際、少なくとも、この地域の歴史や産業の知識を学ぶ必要があると感じ、「相楽ふるさと塾」に入塾させていただいた次第です。

受講してみた今、地域全体像がなんとなくつかめた状態です。さらに地域の出来事に興味を持ち、関心を深め、その上で、このふるさとのまちづくりに生かせる自分の得意分野は何かを見つけたく思っています。

地方自治の変化に伴い、最近の全国のまちづくりの成功例をこの塾やマスコミを通じて知るにいたり、うらやましい限りです。

また、現在進行中の木津中央地区での里山再生計画「里山クラブライフ」や「ファーマーズマーケットプレイス」の進め方、目標の設定等に非常に興味があります。参考にしたいと考えています。

地方分権化の流れのなかで、住民自治による住民と行政の連携もしくは行政に頼らない方策等を目指しつつ、一方で人口減少による少子化・高齢化を見据えながら、また、「無駄な消費はせず、楽しければぜいたくもしたい。」「納得のゆく生き方をする。」という社会の変化も取り入れながら、既存の地域資源、すなわち、地域の自然、史跡（歴史・文化）、農産物、山林、河川等を活かした地域づくりを目指すシナリオづくりに参画してゆけたらと考えております。

木津川市、相楽郡のこれから

木津川市 浅田 博

昨年10月から4か月相楽地域の事を多少理解できたかなと思います。「管内視察研修」では、二町一村が過疎化の現状に対して首長さんはじめ多くの住民の方々がその意識を持って何とかしようとして頑張っておられることは、平凡に暮

らしている私はインパクトを受けました。

行政区が住民へのサービスを提供できる規模は、30万人くらいが必要と聞いています。その中で「職」・「住」が賄え、安心して安全でE C Oな中核都市を築かねば活性化した自活できる街とはならないのではないのでしょうか。

木津川市の一地域や精華町では確かに人口が増えていますが、現状推移のままでは20年30年先は今の若い人たちが壮年になり、育った青年たちが他府県や海外へ働きに出ることになり限界集落化、独居老人化も進むことが予見され、現状の笠置、和束、南山城と変わらなくなります。そうした中で、果たして木津川市、相楽郡はどのような街を目指せばよいのでしょうか。

学研都市には、研究所や有能な学者の方々が多くおられ、世界に負けない研究機関を持ち素晴らしい頭脳集積地としての知的財産や機能があります。それらの財産を現実社会に生かすための、無公害で省資源のハード、ソフトやサービスの生産拠点とする施設を造ることが必要です。

また、第一次産業の農業・林業や酪農などは、これからの日本において必要で大きな産業になります。なぜなら、日本の人口は減少していますが世界の人口は一秒に3人増え、2050年には92億人と予測されており、それらの人々を賄う食料や、森林資源が砂漠化している現状を科学技術が進んでもすぐには解決しえず、世界中で奪い合いになる可能性が大いにあります。そうした中この相楽郡には地産地消が可能な環境にあり、農業、林業、酪農を経済的視野から商業ベースでとらえる産業に育てる必要性があります。

これらの一次、二次産業の育成と共に必要なのは、工場や農場で生産された製品の輸送を行うための交通網と流通システムが必要です。流通拠点では高度な保冷技術等による鮮度の高い農産品の保管倉庫や知識集積型の工場生産品などを地産地消はもとよりリアルタイムで国内へ全世界へと供給を可能にするためのネットワークを活用した高度物流システムの構築と関空、セントレア空港へ、また国内の基幹高速道路へ向けた道路網整備の必要があります。

これからの産業といわれるサービス業は、人口密集度が低く高度なサービスを提供するには難しい状況にあります。公共交通の拠点付近（近鉄高の原駅近辺）ではそれなりの業種が有りますが、娯楽産業においてはその種類や数が制限され必ずしも現状のサービスに満足できる状態ではありません。

これは昼間の人口が主婦と生徒と老人に偏っているためサービス産業の業種が限定されています。子供、学生、青年、成人が昼間の人口を構成することにより幅広いサービス産業の提供と育成が行われます。

自然環境と、観光については山あり、河ありの自然に恵まれた地域であります。しかしその自然を十分に生かし切れていないのが現状です。木津川も笠置地区で人との友好場所があるのみで、災害防御のための調整河川のような役割

が大きいように思われます。

木津川市には国宝などの文化財が府内で 2 番目に多く、観光立市を目指すといわれていますが、過去の遺跡や、社寺を保存するだけでは効果がありません。観光も経済的効果がないものにはそれほど意味がなく、観光を産業化しようとするならば積極的なアプローチが必要です。特に木津川を積極的に有効に活用すべきです。

自活するための中核都市を目指すには、今のような問題やその他の課題がありますが行政区と人口の問題から、木津川市（約 7 万人）精華町（約 3 万 8 千人）笠置、和束、南山城（約 1 万人）の相楽合計 11 万人と京田辺市（約 6 万 5 千人）八幡市（7 万 5 千人）を合併して 25 万人、+ 木津川左岸の新興地の人口増加を考慮し約 30 万人の学生、若者、成人、老人と幅広い人口構成で「職」「住」一体となった行政区を作り安心安全で豊かな社会生活ができる街づくりが必要と考えます。

今回の「相楽ふるさと塾」の研修で住民によるまちづくり、私にもできる分野で積極的に参画し、参加もする気構えが生まれました。

最後に 4 ヶ月お世話になりました先生方はじめ、いろいろご苦労いただきました事務局の方々に御礼申し上げますと伴に、今後ともご指導のほどお願いいたします。

平成 22 年度「相楽ふるさと塾」に参加して

木津川市 岡田 務

今回、標記の研修会に塾生として参加することができました。相楽会館での今回の塾は、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマにした研修が行なわれました。

塾は、8 回の相楽会館での研修と 2 回の現地視察(管内全市町村)があり、研修では、7 人の講師から管内の現状や問題点、社会的背景や地域社会の指針となる方策等に付いて専門的なアドバイスを頂きました。又、管内の現地視察においては、実地に見聞することにより、自分の地域との違った風土や問題点があることを認識することができ、貴重な体験となりました。

今回の研修で私が習得したことを以下に列記します。

1．関西学術研究都市は、「職住近接・省エネ・省資源・福祉の都市」が最高理念であったが完成されたのは、ただ巨大な住宅空間が造成されたのみで、職域が無く2世3世の定住・定着は実現されていないので、10年後ぐらいには人口の減少が始まりかねない、行政の対策としては工場誘致、農林業振興、観光産業振興等がある。

2．社会的背景としては、「高齢化社会・少子化社会・ネット社会・個人主義社会・無縁社会」といわれている。

3．地域の資源としては、人・物・金があります。これらを十分に活用し地域の発展活性化に資することが肝要である。

人は、行政の役人、子ども、学童、成人男子、成人女子、健康な老人、介護の必要な老人などがあるが、人それぞれに出来ることが必ずあります、出来ることに積極的に参画しましょう。また、行政は、従来の自治体経営の枠にとらわれることなく、斬新なアイデアを採用し、あらゆる可能性を排除せず、経営計画を大胆に試行すべきである。住民もまた役所の補助をあまりに期待せず、地域独自の再生活動を立上げ、実施するように努めることが求められている。

物は、山、山林、河川、名水、湖沼、農地、宅地、家屋、工場、観光施設などがある。何処にでもあるような物でも、ちょっとしたアイデアで付加価値をつけたり、PRによっては、地域ブランドとして事業化できる物があります。

金は、財力、産業の仕組み(生産 販売 利益の還元)大切なことは利益の地域住民への還元制度もある仕組みを構築することが肝要である。

4．私がこの塾に参加した目的であり、私の課題でもある「自主防災活動の活性化」についてのヒントと回答

まず、何かの活動をしようとする場合、関心のある人と無関心の人その中間の人がいます。又反対する人が必ず出てきます、そこで大事なことは、この反対する人は、その人に反対する理由があるはずですから、その人は、言い換えれば関心のある人なのです、よく話し合い、共通の解決策をみつけてさらにその企画に参画してもらうようにしましょう。

何かの活動をしようとする場合にこれを強制しないことも大切なことです。何か活動をする場合、人はそれぞれに出来ることと出来ないことがあります。したがって、その人ができる分野について、少しでも参画してもらい、全員が何らかの役割をもって参加することによって、活動を進めていきましょう。全員が活動の趣旨を理解するには相当の時間がかかります。あまり性急にならず無理なく進めていこう。

「相楽ふるさと塾」講演の受講を終えて

木津川市 尾崎 恒義

今年度の「相楽ふるさと塾」において、「地域資源を活かしたまちづくり」等について講演を受講した結果、私、まず最初に自分の居住地域内で、行われている活動の再確認をすべきだと思いました。

私の場合、平素は町外へ勤務していたため、居住地域の日常的活性化活動の実情を再確認する機会がなく、また、今年度の講演の受講により、相楽郡内の地域活性化事業について良くわかりました。

居住地域の地形は、奈良県との府県境に開発された州見台という居住団地に囲まれており、農産物は開発前には、竹林が多く、筍の産地で多量に出荷し、他に、米、野菜などが作付けられており、それ以外の農産物というものはありませんでした。居住地域内の行事は、住民の安定、継続性のある区民協働活動推進のため、従来からの行事である毎年3月と9月に実施する「彼岸の道作り」として、区民が共同で農道の整備や住環境整備を行っており、主に「水土里ネットワーク」が事業の一環として、木津川市から共同活動支援交付金を受けて実施しております。

第2・3回の管内視察研修に出席しましたが、相楽郡東部の笠置町、和束町、南山城村で行われている地域活性化及び雇用促進、観光事業や旧田山小学校舎を利用した体験型の生涯学習センターとして多目的に活動されているのに、相楽郡西部市町における前記のような活動視察はなく、蟹満寺やきつづ光科学館ふおとん、けいはんな記念公園という活動施設の視察のみで、東部町村と西部市町の活性化活動について、格差があるように思われる。今現在、西部市町でも地域活性化活動が行われていると思いますが、その活動が視察内容に含まれておらず、今回の視察は、東部町村の地域活性化事業が盛んな取り組みがわかりました。

地域活性化事業の実施に際しては、行政等の各種団体の協力、補助は必要としない場合もありますが、ある程度、許可申請等で行政等各種団体との協力関係が必要な場合もあります。また、それにもまして、重要なのが、地域住民との連携は絶対必要であります。和束町の場合は、行政、茶農家、農協の各種団体の良い協力関係で行われた事例であると思います。

以前、木津川市の合併時には、「相楽は一つ」という考え方、方向性を言われておりましたが、今も広域で地域活性化事業を考えるべきであり、相楽郡内住民の連帯及び連携意識が重要であると思います。

受講をすまして

木津川市 田島 忠夫

相楽台地域に住んで 11 年。今回の「相楽ふるさと塾」で大変良い勉強をさせていただきました。

相楽西部地域では、開発が進み、人口が増え、都市化が進んでいます。笠置町、和束町、南山城村は 10 年ぶりで見学、自然がいっぱいでした。学研都市に立地する研究施設や、企業で働く方々が、気軽にリフレッシュできる地域としての役割を果たしてもらおうこと。(東部地域)

3 町村にご協力はもちろん、西部地域も積極的な協力が必要。温泉やスポーツ施設等、保養施設の提供を進めてもらう。自然をいかにうまく取り入れるかが必要。これが相楽郡広域事務組合の基本。

J R 大阪駅から加茂行き快速列車が 20 分に 1 本、天王寺、奈良経由で動いている。いかに大阪方面の人々に加茂から南山城村まで来てもらうように P R する必要があり、また、魅力あるものをいかに作るか。これが今後の課題。

相楽地域では「子どもは地域の宝」との理念で、毎週水曜日午後 3 時～5 時、学校をお借りし、放課後子どもプランを開いています。運動場、体育館、図書室、多目的ホールで、毎回、100～130 名参加、ドッジ、サッカー、パターゴルフ、卓球、将棋、碁、書道、積木、コマ回し等、自由に嬉々として過ごしています。

「相楽ふるさと塾」を受講するに至る経緯と受講した感想

木津川市 鏑本 眞一

受講するに至る経緯

私は、平成 20 年 6 月 25 日に定年を向かえ退職し、第 2 の人生を歩む事になりました。ただし、定年退職後の人生に於いて「濡れ落ち葉にならない」様にと考えています。

在職中の 37 年と 3 ヶ月、企業戦士として戦い続けた人生で、振り返って見れば、家庭を思いやる事も無く、仕事以外に趣味も無い私に取っては、大変厳しい第 2 の人生の船出でした。また、木津川市(旧木津町)に移り住んで現在 21

年になります。今思えば、家には寝に帰るだけの生活で、木津川市の歴史・文化などは全く知らず、地域の事などには絶対干渉しない状況でした。

定年退職後の時間を有意義に過ごすため、木津川市「広報」の情報より、「木津川市ふれあい農園」を借りて野菜作りに専念し、健康確保のため「木津川サイクリング倶楽部」「ふるさと散歩 NPO 法人ふるさと案内・かも」などに参加し、ボケ防止のため「けいはんなサロン 暮らしの中の科学」などに参加しました。

平成 22 年 8 月号の広報に「相楽ふるさと塾受講生募集」の案内があり、テーマが「身近な地域資源を活かしたまちづくり」との事で、第 2 の人生に何か活かす事が出来ればと思い参加を決めました。ただし、具体的な目標は全く無く、相楽地域の事及び歴史・文化など、知識向上のために参加しました。

受講した感想

第 2・3 回の管内視察研修は、相楽地域の概要を知る良い機会でした。特に、第 2 回の研修（東部地区）は殆ど知らない地域であり、地域代表者の説明（その地域の現状及び現在の取り組み等）及びその地域の見学が大変興味深かったです。機会があれば、改めて行って見たい地域であり、深く勉強して見たい地域（過疎化が進んでいる地域ですが、その過疎化に向かって戦っている地域として・・・）でした。

また、第 5 回の講演（関西文化学術研究都市）も大変興味深かったです。特に工事進行中の木津中央地区の視察は、普通では見る事が出来ない場所に入れて頂き、整地現場を見る事が出来ました。

私にとって、全ての開催プログラムが新しい情報であり、新鮮な気持ちで聴講する事が出来ました。各講師の皆様及び主催者の皆様に心より感謝申し上げます。

塾受講と地域社会活動を通しての思い

木津川市 麓 忠雄

マッカーサーが 12 歳の子供に「与えた民主主義」を、日本人は自分自身の血肉に出来たのか？ その答えは、鏡に映った今の我々日本人のあり様に見える。鏡に映っているのは、利己主義の鎧をかぶって「ワシがワシ」を振り回すモンスター（彼らを育てたのは誰？）、又、自分では何もしないで「あーしてクレ！こうしてくれ！」の「クレナイ族」、昭和現役時代の世代には身に覚えのある耳の痛くなる、鏡に映る世代の姿。

「相楽ふるさと塾」は、そんな世代を対象に、「地域社会に何が出来るか」の学習会。

これからの「地方自治」の時代、その「時代」に一人一人が地域社会に居て何を求められるのか、何が出来るのかを考える場。「役人は？役所は何をしている？」では何も解決しない、お役所は明治以来相当の功績を挙げ、その実態は今更攻撃しても何の益にもならない。

国を挙げて「地方の時代」「地方分権」、金や権限が「上から下へ」、国から府県へ、府県から市町村へ、その時の重要なキーはそれらを受ける「人＝人材＝能力」の有無・程度、更に、最終の受け皿は「地域社会」、その時に、これからの日本の社会 身近な地域 で、「与えられた民主主義」の血肉が試される。これからの「地域社会」活動には、そのような気持 覚悟 が、特に、「団塊の世代」に期待される、定年退職後＝悠々自適ではない。

大層なことを申して恐縮ですが、地域活動・ボランティアに身を置いての実感です。身近かな自治会活動、「子どもの見守り」、若い共稼ぎ世代の実態、独居老人、また、国政レベルの「子育て手当て」「消費税問題」「領土問題」など、結局は一人一人に至る問題でありながら、まるで映画を見ているように眺めているのでは？

受講のあいだ中、講師の話しにうなづき、時には首をかしげ、また、受講生仲間の質問を聞き、自分なりの答えを探り、未だに満足できない自分の「社会活動」を反省する日々でした。テーマの「決意・所感」については、無理しないで楽しく活動する仲間の輪を如何に広げるか、広げるために、一人称で何をするかを改めて考えさせられました。

感想です

木津川市 本田 勝久

この歳になると偉い坊さまの説法を聴くまでもなく、この世はすべて、草木、小魚、昆虫にいたるまで助け合い、支え合って生きている、存在しているのだと見えてくる。ましてや人は、家庭の温もりや地域と繋がりがなくて生存はありえない。なのに歪み合い、奪い合って、争う人の世が不思議に思えてくる。今日社会において、助け合いの極みであろう「地域福祉」とは地方自治において

なんたるかを教わった気がした。講座に参加して、再認識させていただいた。

先日(1/31)の福井の大雪は、国道も高速道路も止めてしまった。11時間あまり遅れて帰着となったが、雪の中、ずっと堪えていると大雪も大きな資源と気づいてめでたく思えてきた。

人の数も資源と聞く。少子化や人口減少は、国はもとより地域を衰退させる。私が木津川市に引越ししてきたのは、まだ町役場だったが、役場には活気があって、若い職員さんたちの笑顔に魅せられたからだった。府下でも人口増がみられるのは、この相楽以外にないらしい。

そして、「相楽ふるさと塾」、初参加です。開講にも出られず、やむなく2回の欠席はちょっと残念だったけど満足しています。

第2・3回の管内視察研修の企画は今後も続けられる定番でしょうが、大変良かった。どこもかも一度は行った場所、見学した施設でしたが、一味も二味も違っていた。

質問も2回させていただいた。「私のしごと館」のこと、それと前回の過疎問題のことに関わってであったが、本音を言うと、質問というより、議論はおこがましいが、意見交換させていただく、そんな企画を織り交ぜてもらうことはできないであろうか。相楽郡広域事務組合といえども「行政」であろうからか、講師の先生方に言葉を選んでおられるふしがあると思えたのは私一人か。一步踏み込んだ講義や意見交換は講座をきっと盛り上げてくれるはずであると思えた。

ふるさと塾へ参加させていただきました

木津川市 本田 栄

開講式から続けて2回も休まなければならず、つまずいてしまいました。老人世帯につきこの様な機会でもなければ地域の事を判らず仮の住まいの様な生活が続いていたのではないのでしょうか。

古い歴史があって今が有り自分も存在する。恭仁宮へ立ち寄れてないのは残念でした(後で個人でと思いますが説明とか、役所の視察とあれば見れないところも見せていただけるありがたい案内があり内容がきめ細かいですよね)。けいはんな記念公園の訪問は身近に有る公園だけに計画から携わった園長さんの説明でうなづくことだらけでした。現状維持だけではなく前向きに計画をしてお

られ、配布されるチラシを見るのが楽しみです。又東部の開発は木津の歴史が壊されていくようで辛かったです。

地方自治等・相楽に消費生活センターが有ることがわかりました。(自分は大丈夫と思ってもいつ被害にあうか未知数です)

これらを地域・老人会で話題にしていけたらいいかなと思いました。高齢化社会にどっぷり・生きる者として過疎の問題、高齢化社会は深刻で田舎だけではなく便利な都会の片隅でも切実な事です。若い人を見ると、この問題を背負わせるのは酷のように思えてなりませんし又若い人達は逃げ出したくなります。自助努力と云っても限界がありやはり政治に頼るしかないですね。少しは良くなるであろうと期待してたんですがね。ありがとうございました。

愚痴一つ、寒いのには参りました。

「相楽ふるさと塾」を受講して

木津川市 宮脇 登美

今回、「相楽ふるさと塾」を受講して、改めて相楽地域の豊かな自然、受け継がれてきた伝統、未来の可能性を感じました。

また、それと同時に市街地と農村部の格差、東部地域の過疎化等の問題も、相楽地域に住まう私たち全体で考えていかなければならないことだとの思いを強くしました。

特に東部地域の視察研修は過疎化に悩む各町村の様々な取り組みを知り、地域の特性を生かした個性的な町村づくりにアイデアを出し合い、行動し、可能性を広げられている様子にマンパワーを感じることができました。

過疎化の進む町村の再生には、その地域に住む方たちだけでなく、私たちみんなで目を向け、参加し、育てていく姿勢も必要なのではないでしょうか。そのためにも今回の「相楽ふるさと塾」のような研修を含め、取り組みや活動内容をその地域の住人に対する特化した情報ではなく、地域外のより多くの人たちに情報提供していく広報活動は重要であると思います。

私は大阪生まれの大阪育ちですが、高校生のときからこの相楽地域に住み、今や私にとっての“ふるさと”は、この“相楽”に他なりません。今回、「相楽ふるさと塾」を受講したことは、相楽を知り、相楽に目を向ける良い機会になりました。

家族のために歩んできた人生が、ひと区切りつき、仕事オンリーの生活もあ

と数年で終わろうとしているこれからの生き方として、今後、この地元に根ざした活動を通して、地元の方々と触れ合い、地元にとえ少しでも貢献していけるようになればと夢を抱いています。

今回、「相楽ふるさと塾」を通して、相楽を学ぶ機会を与えてくださった関係者各位の皆様、ありがとうございました。

そして、長期間にわたり、「相楽ふるさと塾」に参加された受講生の方々、お疲れ様でした。また、なにかの機会にお目にかかれることを楽しみにしております。

相楽ふるさと塾受講の感想及び近未来事項

木津川市 川崎 稔夫

学んだことその1：相楽は一つ 自分の町だけの発想で行動しない

学んだことその2：傾聴がラティアは すなわち 究極のおせっかい

学んだことその3：協働 連携 強調 交流

このうち、もっともエネルギーを要するのが協働。住民と行政の協働という言葉が生まれて10数年になるが、その真の姿を小生は目にしたことがない。相当な自己犠牲と訓練・修練を積んだ者でないと難しい。生半可なことでは達成できないだろう。

近未来事項:焦眉の急は小学校の教育の在り方

知、情、意のバランス感覚に優れた人材育成のため、小生が「出来る」ことを手段として用いる。

すなわち、習字(書道)を通じて生徒・PTAと一緒に「筆、墨、各種紙」の道具を用いて楽しく遊ぶ快感を味わうことにより遊び心から「知、情、意のバランス感覚」を身につける。

具体的な案は下記の通りだが、紆余曲折があると、覚悟を決めている。

桃太郎と孫悟空の書道展及び生徒・PTA 諸兄と大いに書きましょう(遊びましょう) 2012年秋 後援:相楽教育委員会

・桃太郎：千葉県野田市在住書家 野田市、柏市、流山市の教育委員会後援
川崎は、桃太郎の応援役で、書作品出品 会場：野田市 小学校

・川崎：木津川市在住のエンジニア 相楽地区の教育委員会後援
桃太郎は、孫悟空(川崎)の応援役で、書作品出品

会場:木津 or 精華町の小学校 3 あるいはいずみホール等

お楽しみコーナー: 新聞紙に文字を書く 阿波踊り(徳島新のんき連を川崎が招待)

行政には会場の提供を、民間人は金を出すことで、協働事業の事例

地域の特徴を活かしたまちおこし

木津川市 西村 和男

今回「相楽ふるさと塾」を申し込んだのは8年前に恭仁京近くに引っ越したものの町内を殆んど知らないで、最近自由の身になって町内を散策すると他人に自慢できる場所が多くあることに気づき、今度は管内のことを良く知ろうと好奇心が湧いてきたからです。

今回訪問した管内は都会の騒々しさが無く田園風景の広がるところが多く、ボランティア作業も学校の古い校舎をそのまま活用したりで、私好みの場所がありました。

現在私の住んでいる地域は下水道整備という課題はありますが 町内清掃美化まつり 盆踊り大会 コスモス祭り ゲ - トボ - ル大会など多く行事があり、又「まちおこし」に熱心な人も沢山おられます。私は旅行する時はカメラ持参で風景などを撮っていますが、これからは意識して現地の人に話しかけ会話を通して情報を入手し我が地域の人とは違う角度から物事を見聞きし、まちおこしに微力ながら協力しようと思っています。

地域の人と話をすると限界集落に近いとか若い人がいないので希望が持てないとか言われます。私はこの意見には反対で地域風土、人間社会の特徴を活かせば限界集落でも希望のある地域になると思っています。例えば子供が大きくなって都会に出て結婚をして孫を連れて帰省した時、孫がお祖父ちゃんの住んでいるところには があって楽しいから又行って遊びたいと孫が言うような地域にする(を探し出すのが私の役目です)

最後に以前の「相楽ふるさと塾」では終了後、同好会を作ってその後活動をしているとの情報もあります。今回も同好会が出来れば参加したいと思っていますので誘ってください。

相楽ふるさと塾に思う

木津川市 福井 智

私が今回、「相楽ふるさと塾」を受講した動機は、今年度のテーマ「身近な地域資源を活かしたまちづくり」に興味を持ち、又、身近な地域を更に学習したい思いで参加をいたしました。

私はかつて、国機関・地方自治体へ係わる企業に勤めておりました関係上、第5回「関西文化学術研究都市を考える」、第6回「地方自治のしくみと課題」、第9回「地域を活かす - 過疎集落の実態と過疎対策 - 」等の講義には、あたかも40年前にフィードバックした自分の過去の仕事を振り返るような思いで聞き入っておりました。

講義だけでなく、フィールドワークを通し、地域を膚で感じるにより時代の変遷の激しさに驚くと共に再確認しました。

第5回「関西文化学術研究都市を考える」

現在、木津中央地区の宅地開発を現地見学して、30年前に携わっていた事業が様変わりしている光景にビックリしました。当時、関東の「つくば都市」以上の文化都市を目指していたにもかかわらず、大規模住宅造成のみを生んだだけの宅地開発で、政治・時代の流れに対応出来なく、結果的には、出来上がりの箱物かと痛感した次第です。

関東平野一面に出来た「つくば都市」は、今では砂漠化した様相の準商業都市住宅です。

「街づくりとは」、どうあるべきかと考えさせられました。

第6回「地方自治のしくみと課題」

平成21年にマスコミでは道州制の導入、地方分権の改革が叫ばれました。国、地方の財政難、税収不足と人口減で、全て地方公共サービスの面倒を見ることが出来なくなったという国、自治体の認識だと思えます。自治体が自主的に財政健全化を進めつつ、住民の生活をしっかりと守っていくことが自治の役割でありながら、地域制度は正に疲弊困憊した地方自治のあり方に拍車がかかったと思えます。早急に地域主権指導型が問われる時代の到来でしょうか。

第9回「地域を活かす - 過疎集落の実態と過疎対策 - 」

昨年、私は京都府京丹後市と京都府木津川市との芸術イベントをみる機会がありました。

その中の感想を述べたいと思えます。

平成 22 年 9 月「2010 年日韓間人（はしうど）展 IN 中浜」のイベント

京丹後市中浜において、主催：観光芸術推進倶楽部、後援：中浜区、京都府、京丹後市、京丹後市商工会観光業部会、京丹後市観光協会等で、日韓交流 100 年にあたり、現在活躍されている芸術家、陶芸家の発案で丹後町中浜区民の民家を借りてのアート展示や、多方からこられた客と地域住民との交流等盛大なイベントが催されました。中浜区は京都府最北端の漁業を主産業とする限界集落であります。

講義の中にありましたように、過疎化集落の対策の一環として、若い芸術に係わる人たちが、ふるさと村・町おこしに老若問わず奮起し、全国に呼びかけして一般住民(区民)が参画し行政、諸機関を動かした感動のイベントでした。

平成 22 年 11 月「木津川アート 2010」のイベント

主催：平安遷都 1300 年祭・第 26 回国民文化祭木津川実行委員会木津川アートプロジェクトチーム、後援：(社)平安遷都 1300 年記念事業協会、第 26 回国民文化祭京都府実行委員会木津川アートを楽しんで回るイベントがありました。まさに、京都府南北で芸術の祭典が行われました。

この大きな二つのイベントをみて、私は、違いがあることに気づきました。

まず 主催、後援のあり方、 過疎集落と小都市化の違い(村・町を起こす意識の高揚の相違)、 町おこし(起業の立ち上げ)、 住民参画(意思疎通)、 行政と住民との連携(主催、後援側の支援)等に驚かされたのが率直な感想でした。「地域を活かすとは何か」一端が見えたように思いました。

最後に、2008 年の経済動向指標について、経団連では、日本経済の成長を促す「躍動の 10 年」のスタートを切る年と位置づけ、国民の生活向上を図る「成長創造」をスローガンに掲げました。成長に向けた政策手段として(1)イノベーションの加速による成長力強化(2)EPA 経済連携協定)、FTA(自由貿易協定)の締結による世界経済のダイナミズムの取り込み(3)道州制導入による豊かさの向上(4)事業環境整備による企業活力向上(5)公的部門改革による安心・安全の確保 - の 5 つの戦略を掲げたのを記憶にしております。今日、日本のおかれている現状は、少子高齢化、後期高齢者医療制度、年金・雇用、格差社会、環境、経済、道州制・地方分権の改革、債務 1,000 兆円、国債の格下げ等がマスコミで報道されており国民は疲弊困憊しています。

しかも課題は山積されていますが、政府は急発進・急ブレーキをかけながら、アクセルを踏みつつ、ながら運転で何一つも解決されずに経過しています。

2011 年日本の将来はどうなるのかと危惧するのは私だけでしょうか。

この講習会で学んだことで、今後地域づくりに生かされることがあるならば、大いに自己研鑽を發揮して、地域の人々に、「ふるさとの良さ」を伝えたいと考えます。

今回の「相楽ふるさと塾」講座に、ご協力をいただいた事務局の皆様そして相楽郡広域事務組合の益々の発展をお祈りしてやみません。本当にありがとうございました。

思い描いていた塾

笠置町 植田 克巳

一度は、受講したいと思っていた「相楽ふるさと塾」

退職を機に受講申し込みをすることにしました、20 数年行政の中で相楽 7 ヶ町村の状況を視てきたが、一住民として相楽を再認識したいと意気込んで参加したのですが、描いていたイメージと余りにも違い過ぎていた。

学研都市町の状況それ以外の町村の状況を具体的なテーマで講義され相楽の実情を塾生が認識した上で交流の輪が「相楽ふるさと塾」から生れると期待していたがそのテーマでの研修内容・講義が無かったように思う。

行政でのうたい文句は、木津、精華等相楽西部は学研都市として開発され都市住民が増えるその様な住民の癒しの場として相楽東部 3 町村の役割といわれてきた。

私が描いていた「相楽ふるさと塾」は、各市町村の史跡名称あるいは自慢できる場所を研修し相楽の実情を認識して塾生から交流が生まれる雰囲気作りを行う場が「相楽ふるさと塾」の役割だと思っていた。

塾生にとっては、地方自治のしくみ、まちづくり等の講義も必要だと思うが相楽 1 市 3 町 1 村の地方行政、まちづくり等身近な内容で講義をすればより分かりやすいのではないだろうか。

相楽郡広域事務組合が主催し「相楽ふるさと塾」を開催されているが、相楽郡広域事務組合の内容等講義し認識してもらう必要があるのではないだろうか。

今後、塾で各市町村の実態を認識してもらうようなテーマを増やして「相楽ふるさと塾」を開催していただきたいと願っています。

夢追い大人

笠置町 小林 慶昭

夢のない現代、大人は日々の生活に疲れ、目先の利益を追い求める。

諸先輩が夢描き、求めていた「豊かな生活」とは、現代社会のようなものであったのだろうか？

人々は田舎を捨てて都会へ走り、ふるさとの野山は荒廃し、そして忘れ去られていく。

人々の足跡が歴史となり、その生活が文化を創造するのならば、現代は過去の遺産を食いつぶし、浪費しているのではないだろうか。

大規模開発がいまだ進行中の西部地域と、過疎化に歯止めがかからない東部地域。両極端な二面性が介在する相楽において、どのような地域密着型の地域づくりができるのか？

いずれの地域にもプラス・マイナスの特色があり、全体としての平均化を目指すのではなく、市町村枠組みをはずした白地図の上に、地域の魅力ポイントを記入し、相楽エリア内での様々な行動パターン（ショッピング、レジャー、リラクゼーション）の組み合わせを考え、地域の特色を生かした、地域再発見型「エリアで楽しむ豊かな生活」の創造を行うことが、地域活性化の第一歩ではないかと考えます。

また、地域内のインフラを活用し、現在では連携が取れていない各地発の情報を集約し、「新鮮な情報の集積地」（ポータルサイト）を構築し、エリア内外への情報発信を効果的に高め、「明日楽しむ地域の情報」を誰もが手に入れ、出かけることができるようにすることが望ましいと思う。

昔の個人商店は、単に物品の販売だけでなく、店主と顧客、顧客と顧客の「話のキャッチボール」交わされ、人々は話に花を咲かせ、笑顔が生まれた。

社会の基本は、人と人の結びつきにあり、その基本は今も変わらない。

人の話題になる「もの」を次々と作り出す時代は終わりを告げ、これからは地域資源を生かし、「住んでいるところが楽しいところ」になるよう、夢を追いかけてみましょう。

私の感ずるところです。

過疎対策と雇用の創出

和束町 北 住太郎

2050年にわが国の人口は、1億人未満に。減少するといわれている少子高齢化によるものであり、その4割が高齢者といわれている。そういったなかで、農山村の衰退は防ぎようがないと予想されている。(2006年)国土交通省の集落状況に関するアンケート調査では、65歳以上の住民が50%以上を占める集落が、7,873集落(12.6%)機能維持が困難となっている集落が2,917集落(4.7%)なお、10年以内に消滅する可能性のある集落が422、いずれ消滅する可能性のある集落が2,219、合わせて、2,641集落があるとの調査報告がされている。

また一方、(財)農村開発企画委員会(2006年)による平成17年度限界集落における集落機能の実態等に関する調査報告書によると、すでに消滅した集落や今後、消滅が予想される集落の要因は、人口の減少と公共事業の減少の影響から農地は放棄され、林地は管理不能と報告されている。最近、北海道の山林原野が以上のような原因から中国人に転売され、問題となっている現実をみると、他人ごとではないと感ずるとともに地域の自然、歴史、文化財等を見直し、広域的な見地から地域資源を発掘し、国内はもちろん、世界市場をターゲットに(当面は、経済大国世界第2位と急成長を続けている中国)にターゲットとした。地域の広域観光の整備と積極的な観光情報の発信を推進し、観光客の誘致を図り、地域の活性化に努めることにより、過疎化の歯止めと若年層の雇用の創出につなげていくべきで、重要かつ緊急課題である。

平成 22 年度「相楽ふるさと塾」に参加して

精華町 赤松 寿一

私は精華町に在住して、20 数年になります。その間、光台には、学術研究都市として、多くの会社の研究所や国立国会図書館関西館もでき、また、精華台にアピタタウンとしてコーナンやその他の店、また、祝園駅西には生協の店もでき、買い物も楽になったし、精華町もかなり発展してきたなと思っていたが、管内視察研修で笠置町や和東町、南山城村の現地をバスで案内してもらい、また、各回の講師の説明により、過疎集落の実態及び過疎対策等について、それなりの実態をある程度理解でき、自分なりに協力できる場所はしなければと思っています。(まちおこし)

現在のところ、具体的な過疎対策等については、なにもありません。

「過疎化防止対策の立案」への参画

精華町 安在 數清

所感

私は今回「相楽ふるさと塾」に参加して、相楽地域の歴史、産業、過疎化等の現状を知ることができました。誠に有意義な機会でした。

これを機に、今までの経験、得意スキルを町民の一人として活かせればと考えております。(企画・立案・運用・マネジメント・IT関連)

高齢化・少子化が全国的に危惧されているが、我々の住む相楽地域も例外ではない。高齢化は自然の理であり止める事はできない。また少子化も一町民レベルではどうしようもできない。

そして、その結果として過疎化集落が増加している。みんなが便利な地域、活気のある、より待遇の良い職場のある地域へ流れることは仕方のない事である。

しかし、過疎化防止(遅行)には何か方法があるのではないかと、各地の成功事例も紹介されている。(今回の講義でも紹介された)

この相楽地域の地の利、地縁、気候、産業、歴史を活かした方法があるのでは？

決意

「過疎化防止対策の立案」を提案します。(参画したい)

過疎化防止(遅行)対策について、行政、専門家、住民代表(参画希望者)で

1. 過疎化とは?? 理解をより深め、共有し、の共通認識
 - ・基本理念の設定
 - ・対策基本方針の設定
2. こうしたい町(集落)の姿 (過疎化対策後のこうありたい姿)
3. 相楽地域の現状、特徴、利点、問題点
4. 対策案の列挙(できるだけ多く)
 - 各地の参考事例(失敗事例も): 成果、背景、ポイント
 - 相楽地域において 「できそうな案」 「やってみたい案」
5. 1~2年以内の実現可能な案の選定
 - 選定の理由...メリット、デメリット、優先度、重要度
 - 具体化案(概要、たたき台)
6. 具体化テーマの決定・実施
 - 体制...役割分担
 - アクションプラン(投資費用、成果、効果)

精華町祝園駅東側周辺のまちづくり

精華町 稲田 裕康

私が当地に居住したのは、昭和43年6月(1968年)で今から、43年前で祝園駅東側は、駅付近に10数軒しか建っておらず、木津川まで田畑であった。(近鉄奈良線の学園前は、駅ができたが、家が建っていない時代)

田圃の真ん中に、小企業の宅地会社が田圃を埋立てたところに家を建てたのが始まりで、個人または中規模の宅地業者が競って、田畑を埋立て、家が建ってきた。(区画整理ができていなかったのか、道幅が狭い。)

私の居住宅(駅東)の、杉本地区は、高杉建設、その東側は公成住宅、祝園砂子田線(祝園駅から木津川へ東に向かう道路で当時は道幅5m程度で歩道はなし、現在は、祝園みなみまちづくり協議会と精華町との協議で両側歩道、植栽帯付の道路幅17mとなっている。)の北側は、中ノ町地区で三和住宅となっている。

杉本地区の南側は下久保地区で、小企業の宅建業者のため、家が乱立し、杉

本、下久保地区で317戸（平成22年度）あり、住宅としては、飽和状態で古い建30年以上の家は建替えが進んでいる。

当然、居住している人は60歳以上の割合が多い。（2世帯住める家は少ない）ため、この地区で生まれ育った子供達は他地区に移り、子供達の人数が少なく、麻生 憲一教授の資料のとおり、過疎化が進み、いずれ限界集落化すると思われます。現在は過疎化進展プロセス1に該当しているので、私の所属している祝園みなみまちづくり協議会（平成14年10月南区まちづくり準備委員会の祝園、砂子田線拡充工事ともなうまちづくりが前身）において、これからの10年先のことを考えたまちづくりを提案していきたいと考えます。（自然災害に対峙できるまちづくり等）

「相楽ふるさと塾」に参加して

精華町 内田 等

相楽郡に住んで、もうすぐ10年を過ぎようとしています。今回の「相楽ふるさと塾」の広報を新聞で知り、今年度のテーマ「身近な地域資源を活かしたまちづくり」に興味を持ち、今回参加する次第となりました。

実際に参加して不安と期待が入り混じって、やっていけるかどうか不安でありましたが、そんな不安も一気に吹き飛びました。回を重ねるごとに興味が沸いてきたのです。また、友人等もでき、大変有意義な時間が過ごせたと思います。

残念なのは、10回あるプログラムのなかで、私事ではありますが、腰の持病が悪化して、1月に入院し、卒業資格ギリギリの7回しか参加できなかったことです。もし、今回のような機会があれば、そのときは、10回すべて参加したいと思っています。今回の第2・3回の管内視察研修では、相楽圏域は、東部地域の農業の後継者育成や笠置町、和東町、南山城村などの過疎問題、西部地域の木津川市、精華町などの人口急増による都市問題など多くの課題に直面し、各地方自治体が、取り組み努力している姿を知り、大変勉強になりました。私も機会があれば各地方自治体が主催している行事等に参加して、まちの活性化に役立てればよいと考えています。

相楽郡のことは何も知らなかった私ですが、実際に視察研修して、相楽郡の歴史などを知り、もう一度、機会があれば見て回りたいと思っています。もうひとつ残念なのは、第6回の「地方自治のしくみと課題」を受講できなかった

ことが残念です。事務局の方から資料等をいただき勉強していきたいと思いません。

これらのことを踏まえて、自分の住んでいる地域、歴史、現状をよく知り定年後の人生設計のヒントになればよいと考えています。また、懇親会では、自分の住む地域を知ることで、いろいろな方と意見交換することによって、交流を深めることができ、交友関係の輪が広がったと思っています。

地方の分権化や住民自治が叫ばれる今日、これらの諸問題を解決するには住民と行政の連携がますます重要になってきています。

今回の「相楽ふるさと塾」に参加して、学んだことを持ち帰って、自治会活動やこれらの地域活動に活かしていきたいと思っています。

最後に関係者の方には、大変有意義な時間が過ごせて感謝しています。どうもありがとうございました。

平成 22 年度「相楽ふるさと塾」で学んで

精華町 川西 敏夫

平成 4 年 5 月 光台第 1 期居住者として交野市から精華町に転入してまいりまして、18 年 9 ヶ月になります。この間、光台は関西文化学術研究都市の中心として整備されて参りました。転入時、精華町の人口は確か 18,000 人ぐらいであったと思います。現在は 36,500 人になっております。

この間、自宅近郊をハイキングに行ったり、ドライブに行く程度で、勤務地も大阪市内であったため、相楽郡全体を知ることがありませんでした。

昨年、精華町の広報誌「華創」昨年 8 月号で「相楽ふるさと塾」受講生募集を知り、相楽郡全体のことを知りたいと思い応募しました。

「相楽ふるさと塾」の第 1・7 回はやむを得ない所要で受講できませんでした。第 2・3 回の現地視察研修において、これまで行っていなかった和束町の茶畑見学、続いて笠置町、南山城村での講師、村長のお話を聞き、その後、現地を学して大変印象深いものとなりました。また、行ったことのある「きつづ光科学館ふおとん」も職員の展示の解説を受け、日頃よく行く「けいはんな記念公園」も管理者の説明を聞き、深く理解することができました。また、学研都市視察研修では木津中央地区の造成開発状況を目の当たりにして、そのすごさを感じました。

木津川市の「恭仁京天平祭り」が台風来襲予報のため中止になり、見学でき

なかったことは残念でした。

その他自治行政始め、農村集落の過疎問題、消費者問題、恭仁宮京の歴史と文化、関西文化学術研究都市の近況など幅広く学ぶことができたことをうれしく思っています。

ふるさと相楽

精華町 小池 眞知子

「相楽ふるさと塾」に応募したきっかけは、60歳になり新しいスタートに何か学びたいと思う気持ちと相楽地域の地理・歴史・文化に興味を覚えたからです。特に転居するまで恭仁京のことは全く知らず造営のいきさつを是非知りたかったのです。

講師の先生の話もわかりやすく、さらに深く知りたく限られた時間で残念でした。今後も機会を見つけ学びたいと思いました。

視察では、各市町村の方に直接説明していただき各地のことがよくわかり、何より自然に恵まれた相楽の地をこの目で確かめることができ感動しました。貴重なこの自然を街づくりに生かすことを考え頑張っていってほしい地元の方々の思いが伝わる視察でした。『三町村の魅力』という冊子は、お茶を産業の中心に据え地域コミュニティを再生していこうという意気込みを感じました。また、各市町村で観光にも力をいれ、素晴らしいパンフレットを作成されています。初めて手にして今まで目にする事がなく惜しいことをしました。今後使わせていただきます。

私がこの地に住まいを選んだのは、学研都市という文化と農村の残る自然の癒す力に魅力を感じたからです。講座で学習する中で改めてよい選択をしたなと満足しましたが、街づくりに関しては、様々な問題点があることがわかりました。もちろん財政的な側面も大きいのですが、地域コミュニティをどのように築いていくかという問題でもあると思いました。人のために何かしたいと思う人は多いと思います。コミュニティづくりに参加できる手段を色々考えていくことが必要でしょう。

「相楽ふるさと塾」をとおして、相楽地域を一段と魅力あるところだと知り、ますます好きになりました。子どもや孫にとっても住みたくふるさとであるよう地域に関心を持ち続けるよう心掛けたいと思いました。

『輝きのある自然とふれあう街』 狛田をめざして

精華町 福味由利子

私はまちづくりに対しては一年生です。

私には、この「相楽ふるさと塾」の講義は、レベルが高すぎて出席して聞くのが精一杯でした。でも、回を重ねていくうちに、私にも何かしたいものが見えてきました。

ひとつは、今ボランティアしている『精北まなび体験教室』で、昨年度より校区内を散策する企画があり、今年度は菱田区の神社を参拝したあと、ボランティアの方の竹細工の工房を見学しました。狛田地区には、まだまだ見て楽しめる場所があるのでは。探索して紹介マップが作れたらと思います。

もうひとつは、私が参加していた『狛田まちづくり策定委員会』などでも提案があった、煤谷川や山田池の岸辺に桜の植樹をして、人々が憩える公園整備が実現できればと思います。

狛田地区の開発は始まったばかり。私自身もまだまだ未熟です。もう少し勉強するために、この講座で出会った浅田さんの構想されている『木津川 観光やな漁』観光拠点開発を実現できるよう応援しながら、企画、進行など学んでいけたらと思います。

子供の頃から慣れ親しんだ木津川。木津川を通して上流、下流域の市町村民が互いにイベントなどでピーアールしていき、私たちの住む町が、活性化していったら良いなと思います。

これは、まちづくりとは関係ありませんが、私はもうひとつやりたいことがあります。この講座で出会った川崎さんが進めておられる、傾聴ボランティアです。私の体験から介護している人の心の奥底にあるものを出せる場があればと、考えだした時期だったので興味があります。講座などに参加しながら、もう少し勉強していきたいと思います。

最後に、これからも新しい出会いを求め、そしてその出会いを大切に、未来に向かって学びながら歩いていきます。

相楽地域住民としてのこれからの自己課題

精華町 藤吉 裕一

「自分の住む地域を知りたい」という単なる好奇心が当初の受講動機でした。とりたてて、地域の抱える問題や課題について関心があった訳ではありませんでした。

ところが、第2・3回目の管内視察研修の参加が、自分の住むこの相楽地域や精華町の現状や将来に対し、強い関心を持つと共に、我々世代の果たすべき役割や責任について考えさせられた…。それ程のショックと感銘を受けた視察研修だった。

特に笠置町・和東町及び南山城村への訪問は、今でも強く印象に残っている。各町村の行政トップの方々が、多忙な時間を割いてまで、我々に熱く語って頂いた地域の現状や現在直面している大きな課題等々。そこで私が観たものは、自分たちの住む大切な地域を、崩壊・消滅から守っていこうと、必死になって考え努力されている行政トップの方々の姿でした。各地域共通の課題は、過疎化・高齢化の急速な進行による地域力の低下を、いかに防ぎ、次世代の地域担い手をいかに育てるか、であったと思います。

安易な外部からの企業誘致策等ではなく、自分たちが持っている有形無形の地域資産を、外に向かって発信し外部からの共感を得る様な具体策を考え、実行に移しておられる事を知り、そこに今までの行政とは違った、危機感を持ったリーダーの姿を見た様な気がしました。地域を支えるものは人や住民であることを各トップ共強調されていました。地域住民間の交流は勿論、外部からの人の流入や住民目線での彼らとの交流が、地域再生・地域力向上には不可欠な方策であるとの共通認識には、私も共感出来ると感じた。ご多分に漏れず、私の住む町も、人や地域との交流が希薄化して、無縁社会・地域等と評される地域への途を、確実に進んでいると感じている。前述の3町村の危機は対岸の火事では無く、私たちの足元まで炎は迫って来ている。この様な社会や地域を作ってきた責任の一端は我々世代にも有ると感じている方々と共に、多忙な現役世代の方々に成り代わり、無縁地域化にブレーキを掛けること、その為の行動が私達世代の責任であることを、改めて再認識させてくれた「相楽ふるさと塾」だったと実感しております。

職を離れて 時間ができて 相楽少し理解して・・・

精華町 松井 定市

「団塊の世代」などと呼ばれる私、学校卒業後一途に働いてきた職場を平成22年3月末で定年退職し、以前の生活では考えられないほどの「時間」が生まれました。酷暑の夏が終わるころ塾生募集を知り申し込み、それから4カ月、全体割合では10分の7の出席でした。

ほかの皆さんほどの豊かな見識はなく、「活動」にもまるで縁のない人間ですので、ハッキリ申し上げて、「この機会に相楽をもっと知りたい」という、個人的な興味で参加したようなものでした。よってこの意見発表も、「提言」とか「決意」ではおそれ多く、軽いタイトルにさせていただきました。

視察研修で、けいはんな記念公園・水景園を知りました。記念公園の存在は認識していましたが、奥の方にあんな素敵な場所があるとは意外でした。現地で「公園とは何か」をおもしろく教えてくださった説明員氏の案内も見事でした。少しオーバーですが、この機会がなかったら、ここを知らないまま人生を終えてしまうところでした。

同じく南山城村の視察研修で、閉校した小学校を利用した田山生涯学習センターには、地域活用の今風の実践例を観ることができました。また、若いのに村職員とNPO職員とのダブル身分で、全国展開活動の特権と権限を与えられ説明員の森本氏には、置かれた苦境をなんとか打破しようとする小さな村の意欲を感じました。

最後に、講師諸先生のお話からは、今後の相楽のひとつのイメージとして、「農」(農業ではなく)ある暮らしの実現による地域活性化を思い描きました。現在開発中の学研・木津中央地区では、京都大学・農学部が進出するそうですし、URが描く同地区住民の未来ライフスタイルでは、新しい暮らしのカタチとして「農」が具体化されそうです。「農」は、都市と農村、人と文化の交流などに対して、相楽の新たなキーワードになると思います。

以上、塾の終了にあたっての「所感」です。事務局の皆様、塾生の方々、おかげさまで相楽が少し理解できました。長い間ありがとうございました。

「相楽ふるさと塾」を受講して

精華町 森田 喜久

知っているつもりで何も知らなかった相楽、この度「相楽ふるさと塾」に参加させていただき改めて相楽の良さを感じました。

同じ場所でも、若いときに感じたことと、今、私が感じることでは大きな違いがあるように思った。

私は「相楽は一つ」ということを以前から思っていました。そうした中、(木津町、加茂町、山城町)の合併がありました。思っているだけでは何も進まないと思い、それを実践するには、先ず相楽を知ることからはじめようという気持ちからこの度の「相楽ふるさと塾」に参加させていただきました。

各地域の場所を訪問、その場その場にそれぞれ本当に良い「まほろば」がありました。

このようなすばらしい「まほろば」を、多くの人に知っていただくには、人と人との交流が大事だと思います。(例えば、各市町村が持っている公共の施設を相楽郡に在住する住民には同じ条件で使用できるようにするなど。)

相楽郡は西部と東部に分かれますが西部は文化学術都市として又東部は歴史文化都市として、それぞれの良さを活かして「相楽は一つ」と言えるような町づくりが大事だと思い、微力ながらそのような町づくりをめざして行きたいと思っています。今回、一緒に受講した皆様との意見交換会や懇親会を通じて相楽のロマンを語り合いたいと思っています。

今回お世話になった講師の先生方や事務局の皆様、本当にありがとうございました。

村の活性化について思うこと

南山城村 高本 昌平

私は、この「相楽ふるさと塾」を受講させていただいたのは、少子高齢化が進む村を何とか活性化させる方法はないか、ヒントを得られたら良いかなと思ったのが動機です。

講義の中で、全国の主な成功事例をお聞きしましたが環境、経済状況も大き

く異なることから参考に留めるしかありません。

ただ、この人達の地域を良くするとの情熱が無ければ到底出来ないことです。一番大事なことは、そう言う気持ちであると思いました。

第9回、麻生先生の講演で、「地域を活かす - 過疎集落の実態と過疎対策 - 」を聞かせていただいた時、村は「フェイズ Ⅰ」から「フェイズ Ⅱ」に来つつあると感じました。

当村の人口推移は10年間において

人口の減少 18%(700人)

65歳未満の減少 29%

65歳以上増加 18%(人口構成比 35%)

若年者(20歳以下)の減少 46%

自然減少が起こっており、まさに少子高齢化が進み過疎化が深刻な状態です。

そう言うことから、私は独断ではありますが活性化の道を考えてみました。

それは、第1回、宗田先生の講演の中で、「地域の個性ある発展(自立の促進)・地域資源を活かしたまちづくり」という講義を受けました。

この村に若者が増える・人口が増える、そんな事は出来る訳はありません。

しかしながら、村に活気をもたらすことは出来るのではないかと思います。

「南山城村の資源は何か」それは自然環境、お茶・椎茸・米・野菜等の農産物ではないかと思います。これらを生かした活性化は出来ないか、地域にはR163号線、JR関西本線が軸線となっています。このインフラも大いに活用できます。

今や中高年の健康づくりにウォーキングが大変人気があります。

現在でも東海自然歩道を団体で歩く姿をよく目にしております。

そこで、大河原駅・月ヶ瀬口駅を利用し、高山ダム・夢絃峡・恋志谷神社・農産物直売所等をコースにしてのウォーキング、及びレクリエーションを提案したい。

途中四季折々の野山、木津川・名張川沿岸の景色を楽しめる10キロコース・15キロコース・20キロコース等のコース設定を考える。沿道には、桜・山桜(村の木)・さつき(村の花)・もみじ等の植樹、道路端の手入れも実施して行く。また高齢者の増加に伴うシルバー層のボランティア、もしくはアルバイト等で参画をしていただき士気を高める。

そして又、大河原駅・月ヶ瀬口駅には、案内窓口と土産販売所を置き、広報活動は関西一円とし、案内チラシと雑誌等で行う。

村に多くの人に来ていただき賑わう事が、いろんな場所・商店を利用いただき活性化の一步になるものと考えます。

相楽ふるさと塾に参加して

南山城村 西 正美

第1回講座でも説明されたが、この相楽圏域の西部地域と東部地域では、抱える課題が大きく異なることが改めて認識出来ました。その一方では、地域行政やまちづくりの基本的な課題には、共通して解決すべき事柄も多々あります。そこはやはり、地理的や歴史的な経緯からも、相楽地域として課題に向けた一体的な活動が必要と考えます。

そして、この研修で教わった一例を上げると、この相楽地域で身近にある恭仁京について、私自身はあまりにも無知であったと思います。かつて都が置かれ、平城宮の大極殿が移築され、国分寺設置の詔が発せられたその歴史や文化を知ることができました。

昨年は平城遷都1300年祭が盛大に開催されましたが、当地にもこの様な素晴らしい文化的な財産があり、この歴史的な資源をまちづくりにもっともっと活用できれば良いなと思います。

では、それを我が身として捉えてみると、「地域資源を活かしたまちづくり」と言って大上段に構えた活動には身が引けてしまいます。もっと手軽な気持ちで、何らか地域に貢献できることがあれば、出来る範囲で協力していきたいと思えます。

私と相楽郡

和東町 大西 榮太郎

昨年、町職員から「相楽ふるさと塾」の依頼を受けたとき、私の胸はわくわくといたしました。それは忘れもしない平成6年、第1期生として卒業したあの日から、早17年の歳月が流れ、相楽郡も大きく変化し、その変貌を的確に捉え、新しい町づくりを考えたいと強く願ったからであります。そして、ふるさと塾で相楽郡からいったい何が失われ、何が残され、何が生まれたのか学ぶことが出来たのであります。

まず、失われたものですが、駅前の商店が軒並みにシャッターを降ろしました。バス路線も各地で廃止され、小学校も数多く統合されました。消防団の団員も不足し、町内の運動会も開けなくなりました。さらに、地域の人々の今の支えであった伝統的な行事やお祭りも衰退していったのです。

次に、残されたものは何か、更に深刻であります。高齢化社会の進行により老人ホームなど介護、医療施設の大量の不足、ごみ焼却場や火葬場などの迷惑施設の不足、医師や看護師の不足、取り残された町村の合併、更にいえば、所得格差の増大によるさまざまな歪み。問題や課題は山積しています。

そして生まれたものは何か。相楽郡の明日を約束するサードステージプランに入った学術研究都市の発展です。昨年11月木津中央区でどこまでも続く広大な開発地を見たとき、ここが相楽かと呆然と致しました。施工面積246ヘクタール、計画人口1万1千人と誇らしげに語る若き職員の、その爽やかな横顔を見て、夢ではないと確信したのです。

町づくりのもう1本の柱は、数々の文化財であります。私が相楽のこの文化財に触れたのは、昭和38年京都から木津区検に転勤した時で、まだ28歳の青年でありました。余暇を利用して、狂ったように史蹟や文化財を求め歩きました。40代には、木津史蹟会や相楽郡協議会を結成し、広く運動を展開し、50代には和東町営テレビに100本の番組を放映し、その制作を通じて更に相楽を深めました。60代にはふるさと相楽21の会長を10年間務め、激しい町村合併等の運動を通じて、現在の相楽も見つめてきました。そして、70代には集大成として、次の世代にガイドや語り部として相楽を伝えていきたいと思っています。

こうして人生の大半を相楽で生きてきましたが、この相楽郡の未来図は21世紀の文明と古代文化の融合にあると私は考えています。

具体的には事務組合の冊子にもありますように、学術研究都市のさまざまな恩恵や利点を、郡内のすみずみまで波及させることでもあります。それと共に宝

石のように点在する史蹟や文化財を結びつける一大学術観光圏を創造すること
であります。まさに 21 世紀の桃源郷の実現です。

終わりに、昨日私が見た夢は国宝の仏様を乗せた人工衛星が、宇宙に旅立つ
姿であったことを申し添えます。

活動概要

主催：相楽郡広域事務組合

日 程	研 修 内 容・講 師 等
平成 22 年 10 月 2 日 (土)	第 1 回・開講式：講演・オリエンテーション / 木津川市「相楽会館」 講演：「転換期を迎えた関西学研地域 - 農ある暮らしを見直す - 」 講師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏
10 月 16 日 (土)	第 2 回：地域研究 管内視察研修（東部地域） グリンティ和束「和束茶カフェ」（和束町）～茶畑風景（京都府景観資産登録地域）（和束町）～笠置町産業振興会館（笠置町）～笠置いこいの館（笠置町）～南山城村農林産物直売所（南山城村）～田山生涯学習センター（旧田山小学校）（南山城村）
10 月 30 日 (土)	第 3 回：地域研究 管内視察研修（西部地域） 蟹満寺（木津川市）～きつづ光科学館ふおとん（木津川市）～けいはんな記念公園・水景園（精華町）
11 月 13 日 (土)	第 4 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「恭仁京の歴史と文化 - 地域の文化と地域力 - 」 講師：京都産業大学文化学部教授 井上 満郎 氏
11 月 27 日 (土)	第 5 回：講演・学研都市視察研修 / 木津川市「相楽会館」・現地 講演：「関西文化学術研究都市の近況」 講師：(財)関西文化学術研究都市推進機構 計画調査部長 芝村 雅樹 氏 講演：「ハーモニーシティ木津のまちづくり」 講師：UR 都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 蛭川 喜康 氏 学研都市視察研修（精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区）
12 月 11 日 (土)	第 6 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「地方自治のしくみと課題」 講師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏
12 月 25 日 (土)	第 7 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「協働によるまちづくりの視点と方策」 講師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏
平成 23 年 1 月 15 日 (土)	第 8 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「転換期を迎えた消費者行政～消費者庁の創設と地方消費者行政の活性化～」 講師：京都府消費生活安全センター長 足立 敏 氏 講演：「暮らしに活かす法律の基礎知識」 講師：弁護士 船橋 恵子 氏
1 月 29 日 (土)	第 9 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「地域を活かす - 過疎集落の実態と過疎対策 - 」 講師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏
2 月 5 日 (土)	第 10 回・修了式：基調講義・受講生意見発表・修了証書授与 / 木津川市「相楽会館」 講演：「地域を活かす - 地域経営と地域ブランド - 」 講師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏

開催状況



第1回 平成22年10月2日



第1回 平成22年10月2日



第2回 平成22年10月16日



第2回 平成22年10月16日



第3回 平成22年10月30日



第3回 平成22年10月30日



第4回 平成22年11月13日



第5回 平成22年11月27日



第6回 平成22年12月11日
第7回 平成22年12月25日



第8回 平成23年1月15日



第9回 平成23年1月29日



第10回 平成23年2月5日

平成22年度 相楽ふるさと塾（第17期）開設計画

1 目的

「相楽ふるさと塾」は、平成4年度に「ふるさと市町村圏」の指定を受けたのを機に「人と文化の交差点・相楽」を具体化し、地域の担い手づくりを目指して平成6年度から開設してきました。

相楽圏域は、東部地域の農業の後継者育成や過疎問題、西部地域の人口急増による都市問題など多くの課題に直面しています。地方分権化や住民自治が叫ばれる今日、これらの諸問題を解決するためには住民と行政との連携がますます重要になっています。

第17期目を迎えます今年度は、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマに研修を進めます。

2 テーマ

人と文化の交差点・相楽^{そららく} ～身近な地域資源を活かしたまちづくり～

3 開設時期等

平成22年10月から平成23年2月にかけて、全10回の開催とします。基本は土曜日の午後（1講座3時間）ですが、現地研修のみ1日となります。

4 開催プログラム

	開催日	内容	開催場所
開講式		開 講 式	
第1回	10月2日(土)	講 演:「転換期を迎えた関西学研地域 - 農ある暮らしを見直す - 」 講 師:京都府立大学准教授 宗田 好史 氏	相楽会館
第2回	10月16日(土)	管内視察研修(東部地域/笠置町・和束町・南山城村)	現 地
第3回	10月30日(土)	管内視察研修(西部地域/木津川市・精華町)	現 地
第4回	11月13日(土)	講 演:「恭仁京の歴史と文化 - 地域の文化と地域力 - 」 講 師:京都産業大学文化学部教授 井上 満郎 氏	相楽会館
第5回	11月27日(土)	講演 :「関西文化学術研究都市の近況」 講 師:(財)関西文化学術研究都市推進機構 計画調査部長 芝村 雅樹 氏 講演 :「ハーモニーシティ木津のまちづくり」 講 師:UR都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 蛭川 喜康 氏 現地視察研修(精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区)	相楽会館 現 地
第6回	12月11日(土)	講 演:「地方自治のしくみと課題」 講 師:ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏	相楽会館
第7回	12月25日(土)	講 演:「協働によるまちづくりの視点と方策」 講 師:ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏	相楽会館
第8回	1月15日(土)	講演 : 転換期を迎えた消費者行政 - 消費者庁の創設と地方消費者行政の活性化 - 講 演: 京都府消費生活安全センター長 足立 敏 氏 講演 : 暮らしに活かす法律の基礎知識 講 師: 弁護士 船橋 恵子 氏	相楽会館
第9回	1月29日(土)	講 演:「地域を活かす - 過疎集落の実態と過疎対策 - 」 講 師: 奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏	相楽会館
第10回	2月5日(土)	講 演:「地域を活かす - 地域経営と地域ブランド - 」 講 師: 奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏 意見発表(一年間を振り返って)	相楽会館
修了式		修 了 式	

開催時間については、午後1時30分～午後4時30分(視察研修を除く。)
日時、場所、内容などは、都合により変更となることがあります。

5 受講対象者

原則として、相楽圏域（木津川市及び相楽郡）に在住・在勤する満18歳以上で、相楽地域のまちづくりに関心を持っている方。ただし、平成21年度「相楽ふるさと塾」を受講した方は、ご遠慮ください。

6 定 員 30人

7 申し込み・問い合わせ先

まずは、各市町村担当窓口・相楽郡広域事務組合事務局にお問い合わせください。基本は先着順にしますが、市町村に極端な偏りがでないよう調整させていただくことがありますので、ご了承ください。

（相楽郡広域事務組合ホームページ上からも申込書をダウンロードできます。）

〔締め切り：8月27日（金）〕

市 町 村 名	担 当 課	電 話 番 号
木 津 川 市	学研企画課	(0774)75-1201
笠 置 町	企画観光課	(0743)95-2301
和 束 町	総 務 課	(0774)78-3001
精 華 町	企画調整課	(0774)95-1900
南 山 城 村	総 務 課	(0743)93-0101
相楽郡広域事務組合	事 務 局	(0774)72-0421

8 受講者の決定

9月6日（月）までに決定し、申込者ご本人に連絡させていただきます。

9 参加費

参加受講料は無料。（ただし、資料代として2,000円を徴収させていただきます。その他に、現地研修の場合、施設や寺院等の拝観料、食事代などは自己負担となります。）

10 その他

全10回のうち原則として7回以上の出席がない場合は修了証書の交付は認められません。

【主 催】 相楽郡広域事務組合

平成 22 年度 相楽ふるさと塾修了生名簿

相楽郡広域事務組合

	市町村名	氏 名	住 所	備 考
1	木津川市	<small>きむら たかあき</small> 木村 隆昭	山城町綺田	
2		<small>やなぎさわ まさひろ</small> 柳澤 昌弘	山城町上狛	
3		<small>あさだ ひろし</small> 浅田 博	木津	
4		<small>おかだ つとむ</small> 岡田 務	相楽台	
5		<small>おざき つねよし</small> 尾崎 恒義	市坂	
6		<small>たじま ただお</small> 田島 忠夫	相楽台	
7		<small>つばもと しんいち</small> 鉦本 眞一	相楽台	
8		<small>ふもと ただお</small> 麓 忠雄	相楽台	
9		<small>ほんだ かつひさ</small> 本田 勝久	木津川台	
10		<small>ほんだ さかえ</small> 本田 栄	木津川台	
11		<small>みやわき とみ</small> 宮脇 登美	兜台	
12		<small>かわさき としお</small> 川崎 稔夫	加茂町大野	
13		<small>にしむら かずお</small> 西村 和男	加茂町例幣	
14		<small>ふくい さとし</small> 福井 智	加茂町北	
15	笠置町	<small>うえだ かつみ</small> 植田 克己	有市	
16		<small>こばやし けいしょう</small> 小林 慶昭	笠置	
17	和束町	<small>きた すみたるう</small> 北 住太郎	中	
18	精 華 町	<small>あかまつ ひさかず</small> 赤松 寿一	祝園	
19		<small>あんざい かずきよ</small> 安在 數清	精華台	
20		<small>いなだ ひろやす</small> 稲田 裕康	祝園	
21		<small>うちだ ひとし</small> 内田 等	精華台	
22		<small>かわにし としお</small> 川西 敏夫	光台	
23		<small>こいけ まちこ</small> 小池 眞知子	光台	
24		<small>ふくみ ゆりこ</small> 福味 由利子	下狛	
25		<small>ふじよし ゆういち</small> 藤吉 裕一	光台	
26		<small>まつい さだいち</small> 松井 定市	桜が丘	
27		<small>もりた よしひさ</small> 森田 喜久	東畑	
28	南山城村	<small>たかもと しょうへい</small> 高本 昌平	南大河原	
29		<small>にし まさみ</small> 西 正美	南大河原	

再受講者

平成 22 年度

「相楽ふるさと塾」活動報告書

発行日 平成 23 年 3 月 31 日

発 行 相楽郡広域事務組合

〒619-0214

京都府木津川市木津上戸 15

相楽会館内

T E L 0774 (72) 0421

E -mail kouiki@souraku-kyoto.or.jp

誤字・脱字等につきましては予めご容赦ください。

みんなで作る
人と文化の交差点
相楽

